

集団的自衛権を行使できるようにする安全保障関連法が施行された。戦後貧困で守防政策の姿質だ。平和憲法の重みをいま一度思い起したい。

## 論説

2016-3-29

その後、日米安全保障条約を結ぶ。米軍の日本駐留を認める一方で、急進不正の侵害を排除する必要性も、アシア全域では「千万人以上に犠牲を強いた反省から、戦後、軍民合わせて日本国民だけで三百万人は、戦争放棄と戦力不保持を書き込んだ。

そこへ、きょう施行日を迎えた安保関連法である。

戦中の記憶と重なる。

画学生たちをも戦地へと駆り立てる。

その記憶を重ねる。

実を隠す、

画学生たちをも戦地へと駆り立てる。

その記憶を重ねる。

実を隠す、

田平。その山腹に「無言館」は立つ。昭和の時代、画家を目指しながら手本で戦火に散った画学生の作品を集め、展示する意図のための美術館だ。

コンクリート打ち放しの造酒な建物。扉を開けると、戦没画学生の作品が目に飛び込む。館内を包む静寂。作品は何も語らず、圧倒的な存在感が、向き合つ者を無言にさせる。故に「無言館」。

「戦火に散った画学生

きつけは、東京美術学校

（現在の東京芸術大学）を繰り上げ卒業した後、旧満州（中国東北部）に出征した経験を持つ洋画家の野見山暉治さんとの出会いだった。

「戦死した仲間たちの絵を

無言館は、館主の野見山さん（一九九七年、近くで経営する「信濃テツサン館」の分館として開館した）。

このまま見捨てておけないにはゆかない」といふ野見山さんとともに、戦没画学生の遺族を全館に訪ね、作品収集を続けた。

「戦死した仲間たちの絵を

このまま見捨てておけないにはゆかない」といふ野見山さんとともに、戦没画学生の遺族を全館に訪ね、作品収集を続けた。

## 「無言館」からの警鐘

政府は、自らを守る個別の自衛権のみ行使する憲防衛に徹し、外国の同士の戦争に加わる集団的自衛権の行使を禁じてきた。

自衛隊はきょうを機に「戦争できる」組織へと法的に変わった。

菅相が視野に入れるのはそ

れだけではない。

自民党の党は憲法改正。

夏の参院選で他党を含めて、「改憲派」で三分の二以上の議席を確保し、改正の発議をめざす。究極の狙いは九条改正による「国防軍」創設と集団的自衛権の行使を明文規定で認めるところだ。

種島さんは今、声を大に

して書いていたいことがあるといふ。

「平和憲法を耕して、いま月がある。先づ憲法を耕し、育てた。種をまいたのはマツカセー（連合国軍最高司令官）か

カーサー（連合国軍最高司令官）か

もしないが、耕し続けたのは日本

人。無数の花が咲いている。そのこ

とをもうと誇りに思つべきだ」

「歓戦」という遺伝子

「歓戦」といふ遺伝子

3/29 日 3/29